

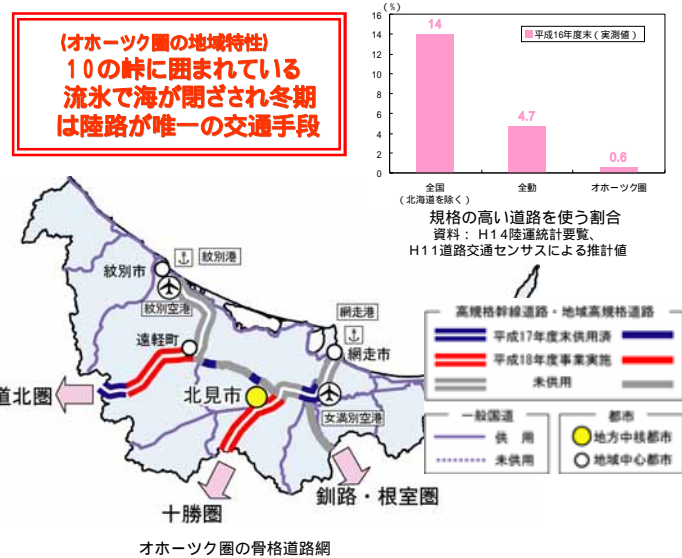
REGION : オホーツク圏の H17達成度報告 / H18業績計画

豊かで特徴あるオホーツク圏の資源を活かす、安心・安全なみちづくり

オホーツク圏の現状と課題

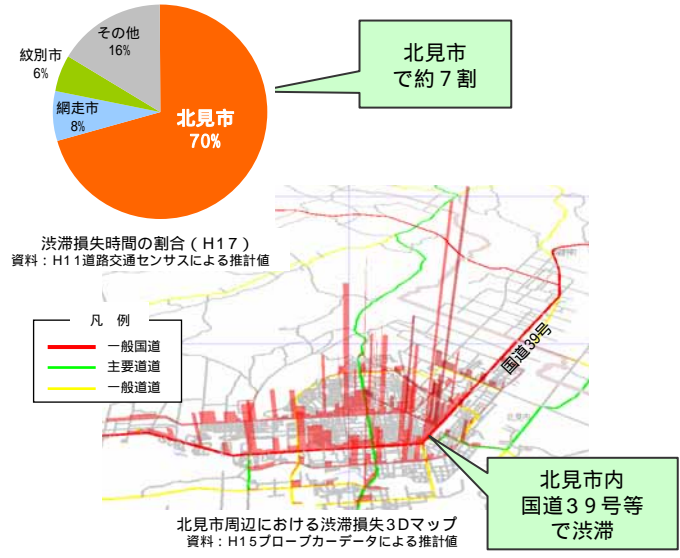
骨格幹線道路網の整備が課題

オホーツク圏は高規格幹線道路の整備が非常に遅れており、峠の解消や長距離移動を支える骨格幹線道路網の整備が強く求められています。



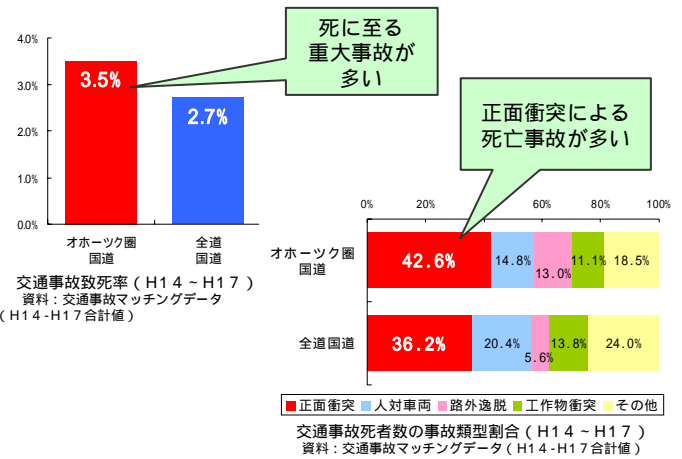
北見市内に交通渋滞が集中

交通渋滞による損失時間は、北見市にオホーツク圏の約7割が集中し、国道39号等では円滑な交通が損なわれています。



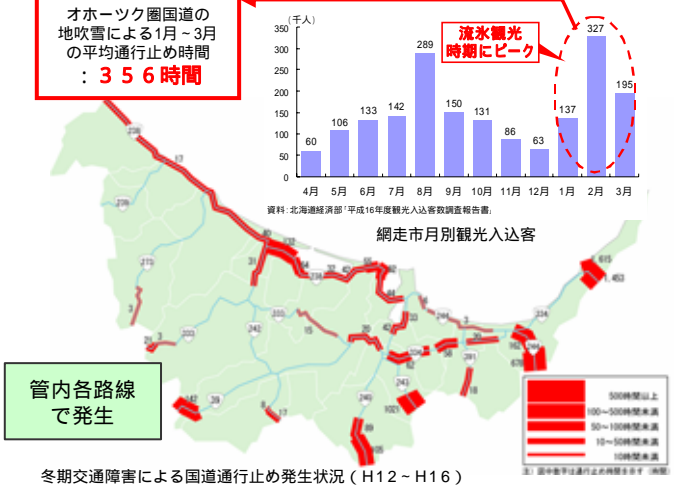
死に至る重大事故が多いオホーツク圏

オホーツク圏の国道では死に至る重大事故の発生率が高く、特に正面衝突による死亡事故が多発しており、重点的対策が求められています。



オホーツク圏では地吹雪等による交通障害が多発

オホーツク圏では、冬期に地吹雪等による通行止めが多発しており、物資流動や生活流動の他、冬期観光にも影響を与えています。



平成17年度の成果と平成18年度の成果目標

指標名	H16実績	H17目標	H17実績	H18目標	H18主な取り組み事例
規格の高い道路を使う割合	0.6%	0.7%	0.9%	1.2%	・旭川紋別自動車道 (旧白滝-丸瀬布IC間) ・国道39号北見道路
H16モニタリング区間における道路渋滞の損失時間	222万人時間/年	渋滞損失時間の削減	204万人時間/年	渋滞損失時間の削減	・国道39号北見道路 ・国道39号北見市昭栄避讓車線
交通事故死者率	0.57件/億台キロ	交通事故死者率の減少	0.47件/億台キロ	交通事故死者率の減少	・国道39号北見道路 ・国道238号紋別市沼の上ランブルストリップス
通行規制区間の箇所数	3箇所	2箇所	2箇所	2箇所	・国道333号佐呂間防災 ・国道334号真鯉・宇登呂道路 ・国道238号紋別地区震災対策
地吹雪対策が必要な箇所数	8箇所	7箇所	7箇所	6箇所	・国道39号北見市端野町防雪林 ・国道238号雄武町北幌内防雪対策

『規格の高い道路』に関する取り組み

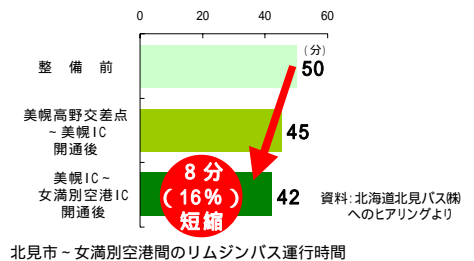
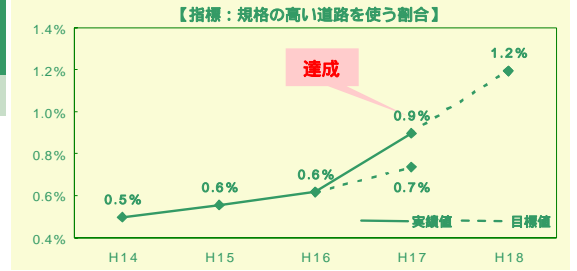
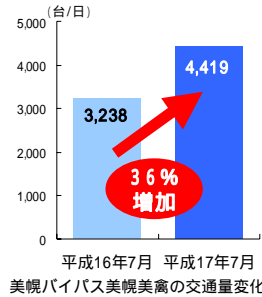
平成17年度の実績

美幌バイパスが全線開通、空港アクセスが向上

平成17年7月に、美幌バイパス美幌IC～女満別空港IC間が開通、女満別空港へのアクセスが向上し、空港利用者の多くがバイパス開通の効果を実感しています。また、全線開通により道路の利便性が向上し、多くの車両の転換がみられ、既に開通していた区間では交通量が約3割の増加となりました。その結果、オホーツク圏の規格の高い道路を使う割合は昨年より上昇し、0.9%となりました。

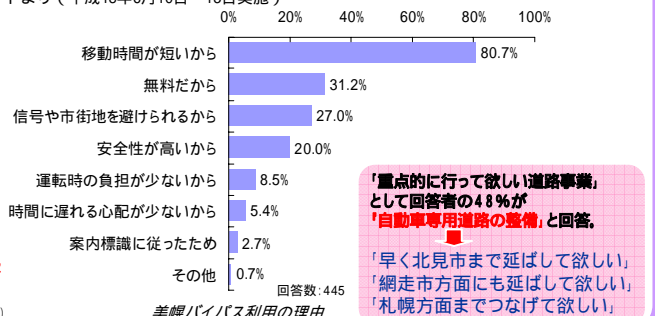
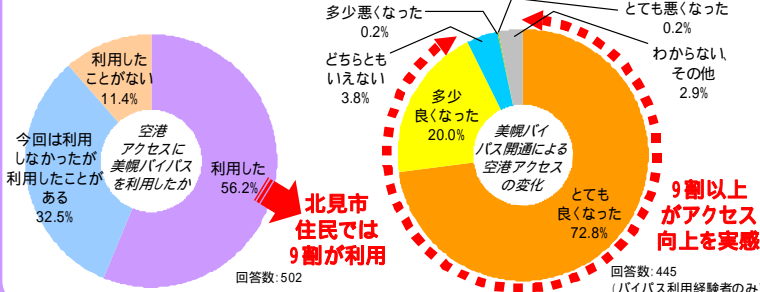
平成17年度主な取り組み

- ・国道39号美幌バイパス美幌IC～女満別空港IC間(7月3日供用)
- ・旭川紋別自動車道白滝IC～丸瀬布IC間、丸瀬布IC～遠軽IC間(事業実施中)



(空港アクセスにおける美幌バイパス利用者の声)

女満別空港利用者アンケートより(平成18年6月10日～13日実施)



平成18年度の取り組み

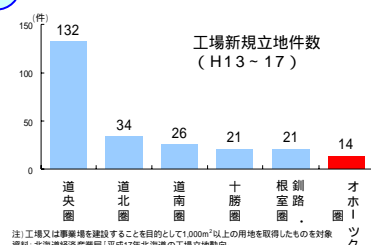
早期の高速交通ネットワーク完成に向け、事業を推進

平成18年度には、旭川・紋別自動車道旧白滝～丸瀬布IC間(仮称)の開通を予定しています。これによりオホーツク圏と旭川・札幌方面間のアクセスが向上し、物流の他、住民の生活面での移動や周遊観光等での効果が期待されます。

また、平成18年度は、北海道横断自動車道のうち、陸別町小利別～北見間に着手するほか、国道39号北見道路や旭川・紋別自動車道白滝～遠軽間の整備も進め、早期の高速交通ネットワークの完成を目指します。

平成18年度主な取り組み

- ・旭川・紋別自動車道旧白滝～丸瀬布IC間(平成18年度供用予定)
- ・旭川・紋別自動車道白滝～遠軽間(事業実施中)
- ・国道39号北見道路(事業実施中)
- ・北海道横断自動車道陸別町小利別～北見間(事業実施中)



3. 圏域毎の取り組み (オホーツク圏)

『渋滞』に関する取り組み

平成17年度の取り組み

渋滞損失時間が前年より削減

平成17年度の渋滞損失時間は、前年より削減することができました。その大きな理由として、国道39号モニタリング区間における路上工事が終了したことが挙げられます。また、国道39号北見市内で重点的に実施している避讓車線（ゆずり車線）整備も交通の円滑化および安全性向上に貢献しています。

平成17年度の主な取り組み

- ・国道39号北見道路(事業実施中)
- ・国道39号北見市豊田避讓車線

平成18年度の取り組み

国道39号の渋滞対策を重点的に実施

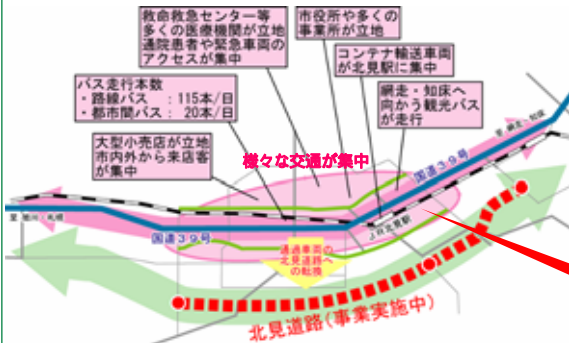
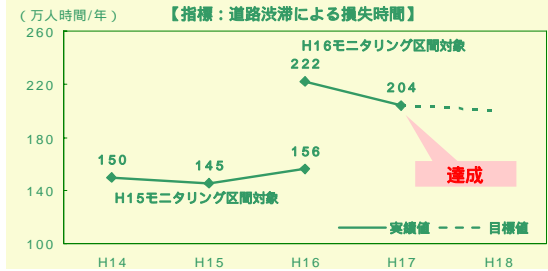
抜本的対策として、国道39号北見市周辺の渋滞損失が集中する区間をバイパスする北見道路の整備を進めています。さらに、国道39号北見市内における避讓車線整備も継続して行い、円滑な交通の確保に努めます。

国道39号北見市街地の現状

- ・交通量は圏内第1位。
- ・沿道に商工業施設等が集中。
- ・多くの通過交通も流入。
- ・交差点が多く間隔が狭い。
- ・事故率は圏内で最も高い。

平成18年度の主な取り組み

- ・国道39号北見道路(事業実施中)
- ・国道39号北見市昭栄避讓車線



整備後、通過交通の約8割が北見道路に転換すると見込まれており、渋滞解消が期待されています。

『交通安全』に関する取り組み

平成17年度の取り組み

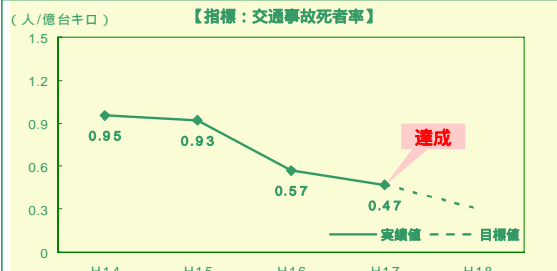
正面衝突多発区間等で対策事業を実施

国道238号紋別市小向等、正面衝突による死亡事故が多発する路線においてランブルストリップスを整備しました。また、追突や正面衝突の多い国道39号北見市豊田では避讓車線を整備し事故の減少を目指しました。

その結果、平成17年の正面衝突による死者数は前年より1人減少、追突による死亡事故は発生せず、圏内国道の交通事故死者率は減少しました。しかし、未だ年間10人の死者が発生していることから、今後も死亡事故が集中する路線を中心に事故対策事業を進める必要があります。

平成17年度の主な取り組み

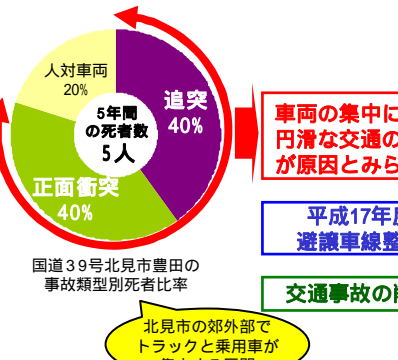
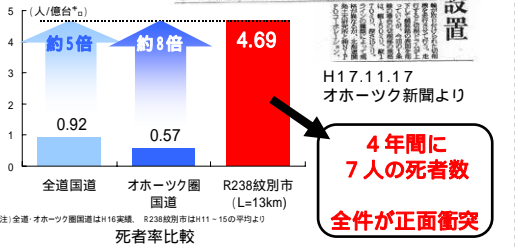
- ・国道39号北見道路(事業実施中)
- ・国道39号北見市豊田避讓車線
- ・国道238号紋別市小向ランブルストリップス
- ・国道238号湧別町計呂地ランブルストリップス



国道238号紋別市小向の状況



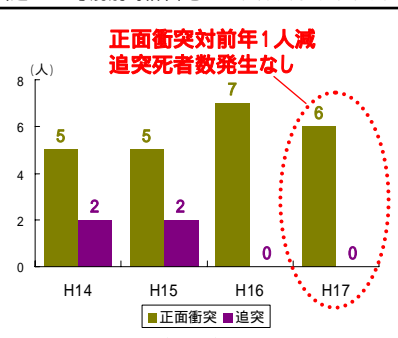
平成17年の事故直後、直ちにランブルストリップスを整備



車両の集中による円滑な交通の妨げが原因とみられる

平成17年度 避讓車線整備

交通事故の削減



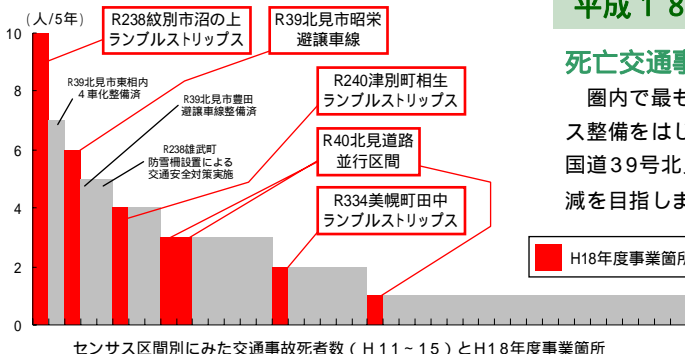
平成18年度の取り組み

死亡交通事故集中箇所等重点的に整備

圏内で最も死亡交通事故が集中する国道238号紋別市沼の上でのランブルストリップス整備をはじめ、交通事故が集中する箇所重点的に引き続き整備を行います。また、国道39号北見道路等、走行安全性の高い自動車専用道路の整備を進め、交通事故死の削減を目指します。

平成18年度の主な取り組み

- ・国道39号北見道路(事業実施中)
- ・国道39号北見市昭栄避讓車線
- ・国道238号紋別市沼の上ランブルストリップス
- ・国道240号津別町相生ランブルストリップス
- ・国道334号美幌町田中ランブルストリップス



『防災』に関する取り組み

平成17年度の取り組み

通行規制区間での事業の推進

オホーツク圏の国道では、連続降雨量が基準値を超えた場合等、通行止めとなる通行規制区間として3箇所が指定されていましたが、17年度に国道240号津別町が通行規制区間解除となりました。国道240号はオホーツク圏と釧路圏とを結ぶ重要な幹線道路であり、通行規制解除が物資輸送や観光流動の安定化に貢献しています。

平成17年度の主な取り組み

- ・国道240号津別町本岐 (H17供用)
- ・国道333号佐呂間防災 (事業実施中)
- ・国道334号真鯉道路 (事業実施中)
- ・国道334号宇登呂道路 (事業実施中)

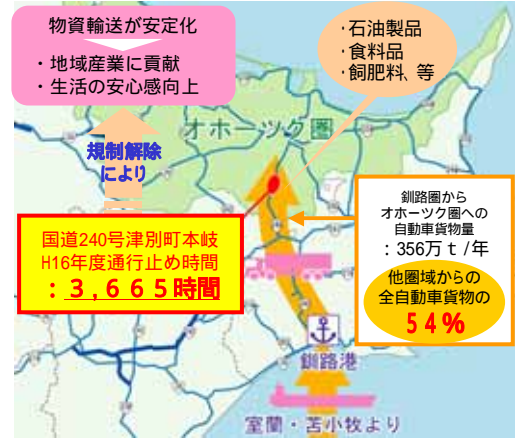
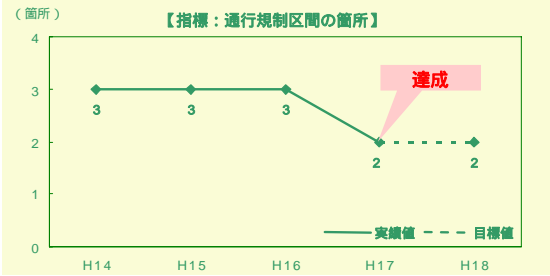
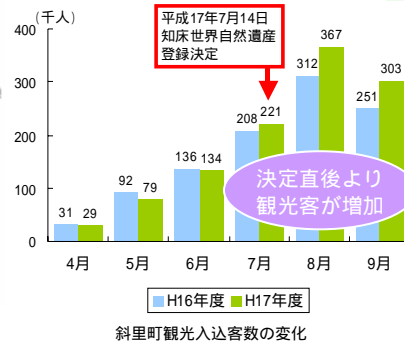
平成18年度の取り組み

防災事業等による通行規制の解消

平成17年7月に知床が世界自然遺産に登録され、オホーツク圏の観光客ニーズが高まっている中、早期の通行規制区間の解消を目指し、引き続き国道333号佐呂間防災および国道334号真鯉道路・宇登呂道路の整備を進めます。また、国道238号紋別地区における渚滑橋、芭雷橋の震災対策事業も実施し、オホーツク圏の安心・安全な道づくりを進めます。

平成17年度の主な取り組み

- ・国道333号佐呂間防災 (事業実施中)
- ・国道334号真鯉道路 (事業実施中)
- ・国道334号宇登呂道路 (事業実施中)
- ・国道238・239号紋別地区震災対策



『冬』に関する取り組み

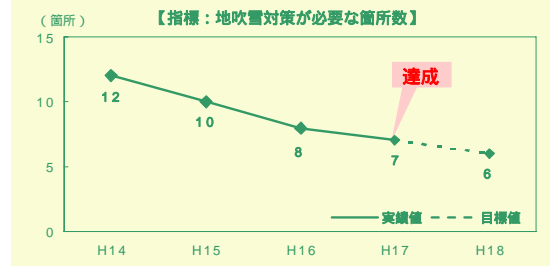
平成17年度の取り組み

防雪柵設置等による冬期交通障害対策推進

国道238号雄武町北雄武の防雪対策が完了し、圏内の地吹雪未対策箇所を8箇所から7箇所に削減しました。今回の完了箇所は、有数の水産基地であるオホーツク圏と宗谷地域と結ぶルート上にあり、水産品輸送の安定化等に貢献しています。

平成17年度の主な取り組み

- ・国道238号雄武町北雄武防雪対策



平成18年度の取り組み

地吹雪対策必要箇所数を削減

引き続き、平成18年度は冬期の交通障害が特に集中するオホーツク海沿岸の国道238号雄武町北幌内における防雪対策を完了します。

さらに、国道39号北見市端野町においても防雪林設置事業を開始し、流水観光時期の網走市への安定したアクセスルートの確保を目指します。

平成18年度の主な取り組み

- ・国道39号北見市端野町防雪林設置
- ・国道238号雄武町北幌内防雪対策




【網走市内ホテル事業者】
「吹雪による通行止めでお客さんが来られないケースが毎年2~3回程発生します。この場合、お客さんは不快な思いをし、ホテル業者も金銭的損害を被ることから、オホーツク圏では冬期交通の安定化が重要と感じます。」

3. 圏域毎の取り組み（オホーツク圏）

地域連携への取り組み・その1

地域協働によりビューポイントパーキングを整備、交通性向上と観光振興に貢献

国道39号メルヘンの丘周辺では、交通安全面での必要性から駐車帯整備が求められていました。地元の自治体や関連団体等とのワークショップを重ねた結果、平成17年に魅力あるビューポイントパーキングが完成、利用者からの高い評価を受けると共に、地域の観光資源としての活用が成されています。



メルヘンの丘


整備前の状況

メルヘンの丘は映画のロケ地にも使用されたオホーツク圏特有の丘陵景観で、季節毎に変化する表情が魅力

《当初の問題点》

- ・路側駐車による道路機能の低下
- ・写真撮影等の事故の危険性、等

駐車帯整備前の状況




駐車帯整備に向け

ワークショップの開催

ワークショップは、自治体や写真愛好家団体を含む関連7団体、および耕作者・地権者により結成。計4回開催。

↓

課題の抽出、役割分担、機能・構造検討を重ねる！



ワークショップ開催状況

《ワークショップでの決定事項》

- ・道路機能を確保するため路側駐車帯の整備
- ・撮影ポイント、眺望ポイントとしての整備
- ・ユニバーサルデザイン（UD）及びホスピタリティーの向上（標識類の多国語表記等）
- ・占用物件の集約（電柱の片側集約）

他

ビューポイントパーキング完成

完成記念イベントの様子



ワークショップメンバー他、地域住民約90名が参加

《整備状況》

- ・大型バス2台、乗用車10台分の駐車スペース
- ・景観を楽しむ空間は写真撮影用に2段構造
- ・車いす利用可能なスロープを設置（ユニバーサルデザイン化）
- ・路側排水施設の埋設化、他

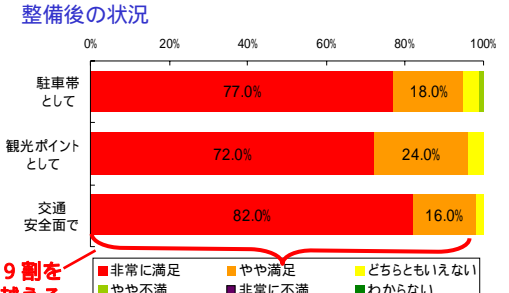


道路標識にビューポイントマークを設置



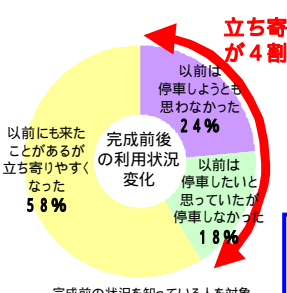
完成後

整備後の状況




利用者アンケートの結果

立ち寄り率が4割増加



完成前後の利用状況変化



ビューポイントパーキングの活用事例

- ・団体ツアーの立ち寄り場所に
- ・観光客対象のビューポイントラリー開催
- ・町のウォーキングコースに指定、等

地域連携への取り組み・その2

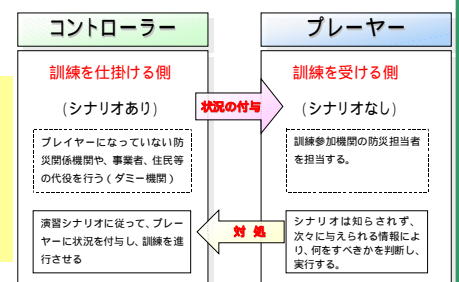
除雪連携訓練の実施による危機管理体制の強化

平成16年1月にオホーツク圏を襲った豪雪を教訓に、北見市の異常気象時における除雪体制の連携に関する国・道・市による共同訓練を実施し、危機管理体制の強化を図りました。

北見地区異常気象時除雪連携共同訓練の概要

- ・実施日：平成17年12月21日
- ・会場：北見市総合卸センター
- ・参加機関：網走開発建設部
網走土木現業所
北見市
- ・実施内容：異常気象時における国、道、市の共同連携除雪体制についてのロールプレイング方式の訓練

コントローラー（訓練を仕掛ける側）とプレーヤー（訓練を受ける側）に別れ、豪雪時における初期対応効率的・効果的な除雪作業に向けての連携の2つのケースを想定し訓練を実施



自然環境に配慮した取り組み・北見道路

自然環境に配慮した道路整備を目指して

一般国道39号「北見道路」では、道路整備による自然環境への影響を最小化し、自然環境の保全に努めながら道路と自然の共生を図っています。

環境保全対策を考える懇談会の実施

事業を進めるにあたり環境に対する具体的な保全対策について学識者や有識者、地域の代表の方々と意見交換を行う場として懇談会を設置。計4回開催。

- 第1回 H15.10.30
- 第2回 H16. 1.27
- 第3回 H16. 3.24
- 第4回 H16. 8.18



《懇談会での検討事項》

- ・常呂川橋周辺等、箇所別の環境保全対策
- ・トンネル周辺の環境保全対策
- ・道路排水処理の保全対策
- ・工事中の環境保全対策
- ・道路緑化
- ・植物移植作業

環境保全を考慮した道路構造の概要

< 一般的工事業 >



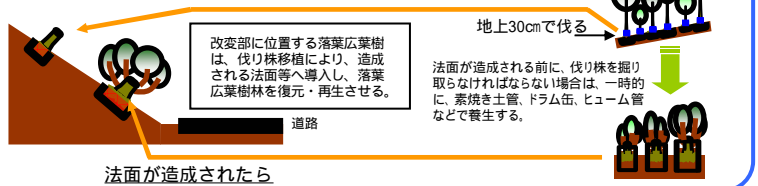
< 環境保全対策案 >
(トンネルを延伸し、地形改変縮小)



落葉広葉樹の伐り株移植による復元・再生

伐り株移植の方法

直接(法面が造成されている場合)



具体的な対策実施事例(その1)

ニホンザリガニ生息地での対策

生息地である沢の保全として構造物を用いて影響を回避

プレキャストアーチカルバート工

橋梁工

- ・沢が保全される
- ・動物の移動経路も確保される

工事中は一時的に移植を実施

移動ニホンザリガニ

工事前

約50mの範囲内

移植先

移植元

道路(予定)

工事箇所

ニホンザリガニ移植手法の概念

ニホンザリガニ移植状況

具体的な対策実施事例(その2)

植物重要種の移植

工事予定箇所に生育する貴重植物に影響のない箇所に移植

キタミフクジュソウ

クリンソウ

貴重植物(キタミフクジュソウ、クリンソウ等)

貴重植物の株取り

貴重植物の株移植

地表面

マーキング旗

地表面